



特定非営利活動法人(NPO法人)

セルフメディケーション推進協議会会報

Self-medication advocacy council

2005年9月1日 No.6

第3回日本セルフメディケーション学会開催にあたって

SMAC主催にて毎年秋に開催されてきました学術フォーラムは今年から呼称を変更し、『第3回日本セルフメディケーション学会』として9月17、18日の2日間、東京都港区の共立薬科大学・芝校舎で開催することになりました。準備を担当致します実行委員会を代表して、その経緯と内容についてご紹介させていただきます。

ご承知の通り、SMACは本年創設4年目を迎え、若干の組織変更と事務局の移転を行いました。SMACは生活者のセルフメディケーションの実践を支援するための組織であり、病気の予防・治療、健康の維持・増進に寄与することを目的としています。なかでも学会はSMACの活動事業として特別セミナーと共に重要な位置付けがされています。すなわち、コンセプトとして理解され始めたセルフメディケーションを各分野で具体的に実践した成果を公開し、討論評価することによってエビデンス(証拠)として定着させたいと考えます。一言でいえば「セルフメディケーションを科学する」ということです。成果を測る物差しは、従来の医学・薬学的方法とは限りません。生活者が参画しようという意欲を起こさせる動機、経済学的な効用など新しい、あるいは職域の異なった分野からの視点が必要なのです。

このような観点から、パネルディスカッション「セルフメディケーション - 職域別にみた考えと実践」を企画しました。コーディネーターにジャーナリストの田辺 功氏にご参加頂き、生活者側の視点も配慮しました。

SMACに参加するメリットは何かという声に応え



実行委員長 / 常任理事 村田 正弘

る意味も含め、「教育講演」を福島県立医大附属病院・薬剤部長の江戸清人氏にお願いしました。江戸氏は病院薬剤師ですが、絵本『クスクスせんせい』の監修など薬の基本を理解してもらう活動をされています。「医療提供者が知っていること」と「説明して生活者にわかってもらうこと」は違います。薬業界関係者のみならずとも、ご参加頂くメリットは大きいでしょう。

2日目に開催されます特別講演「癌だってセルフメディケーション」は奇抜に聞こえるかもしれませんが。この題は帯津良一氏と相談して決めました。帯津氏は外科医を経て、がん向きあう養生法を提唱された統合医療の先進者です。ユーモアあふれる語り口から健康を願う生活者を支援する極意を学びたいと思います。

一般演題にどんな内容のものが集まるかも楽しみです。学会の名称にこだわらず、身近な問題を少し整理して提出して頂けると、この会は活性化します。職域や地域をこえた討論が弾むことを期待しています。今回は土曜日の午後から日曜日の昼までという期間を設定しました。土曜の夕刻の交流会にもぜひご参加頂き、セルフメディケーション推進の輪を広げられるよう願っています。

第3回日本セルフメディケーション学会

日 時：2005年9月17日(土) 18日(日)

会 場：共立薬科大学・芝校舎

年会長：村田正弘(明治薬科大学)

第1日 9月17日(土) 13:00 - 19:00

13:00 - 翌日12:00まで 一般発表(ポスター展示)————— 1号館1階ホール

13:15 - 15:15 パネルディスカッション————— B1 マルチメディア講堂

「セルフメディケーション - 職域別にみた考えと実践」

コーディネーター：田辺 功(朝日新聞 編集委員) 大嶋 耐之(金城学院大学)

パネラー：福田 千晶(医師) 関口 周吉(DS経営) 菅野 隆(健康運動指導士)

殖田 友子(管理栄養士)

16:30 - 17:15 教育講演————— B1 マルチメディア講堂

「生活者の相談に対応するために必要な薬の知識」

江戸 清人(福島県立医大附属病院 薬剤部長)

17:30 - 19:00 交流会(懇親会)————— 共立薬大食堂

第2日 9月18日(日) 9:00 - 12:00

9:00 - 10:30 一般発表討議————— B1 マルチメディア講堂

10:45 - 11:45 特別講演(一般公開、無料)*————— B1 マルチメディア講堂

「癌だってセルフメディケーション」

帯津 良一(帯津三敬病院名誉院長)

(学会参加以外の一般の方で聴講希望の方は、予め下記の事務局宛に往復はがきにてお申し込みください。定員になり次第締め切らせて頂きます。)

*詳細はSMACホームページ(<http://www.self-medication.ne.jp>)でもご覧いただけます。

参加費：会員 2,000円 非会員* 3,000円 学生 500円

*追加1,000円で、SMACへ入会できます。

*特別講演・一般聴講参加希望はがきの宛先

NPO法人 セルフメディケーション推進協議会 事務局

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11第7東洋海事ビル8階(株)創新社内

*学会についてのお問い合わせ

第3回日本セルフメディケーション学会実行委員会 村田 正弘(明治薬科大学)

TEL & FAX 0424-95-8974 E-mail murata@my-pharm.ac.jp

〔第2回SMAC特別セミナー報告〕

医薬品業界をはじめ、食品メーカー各社など
定員を上回る盛況の会に

開催日：2005年6月16日(木)

13:15 ~ 16:30

会場：ホテル海洋・レインボーホール

第2回目を迎える今回の特別セミナーは、“我が国におけるサプリメントの大きい可能性を求めて”というテーマのもと5人の専門家をお呼びし、ご講演いただいた。今回は、近年とくにその成長が注目されている“サプリメント”がテーマであるため、医薬品業界関係者をはじめ、ヘルスケア事業に力を入れている食品メーカーや化粧品メーカーの参加者も多く見られるセミナーとなった。

まず、特別講演としてご講演いただいた(独)国立健康・栄養研究所の山田和彦先生(本会理事)には行政側から見たサプリメントの位置づけを制度の面からお話いただいた。条件付き特定保健用食品や規格基準型特定保健用食品についての解説をはじめ、栄養素の表示基準についての問題点や審議中の事項、今後の課題等、内容の濃い40分となった。

パネルディスカッションは小田理事の司会にて、始めにアメリカで補完代替医療のコンサルティングをされている安西英雄先生にアメリカのサプリメント事情をご紹介いただいた。サプリメント先進国であるアメリカではサプリメントが生活者に対していかに身近なもので、彼らに対しどのような役割を果たしているか、また国が補完代替医療に注目し、大きな研究予算を投じている等、非常に興味深いお話が好評だった。

次に、本会理事である医薬情報研究所(株)エス・アイ・シーの堀美智子先生は、ドラッグストアの店頭ではサプリメントが生活者にどのように利用され、どのような問題点を引き起こしているのか、先生ご自身のご経験されたり、薬剤師が日々直面している様々な事例を提示しながらご紹介された。

東京大学薬学部名誉教授でもあり武蔵野大学薬学部教授の齋藤洋先生には、サプリメントの危険性、注意点を示していただいた。法的には食品である“サプリメント”は、まだまだ規制が甘く、その効能・役割に



プログラム

“我が国におけるサプリメントの大きい可能性を求めて”

【特別講演】

「我が国のサプリメント～制度の面からどう捉えるか」

独立行政法人 国立健康・栄養研究所 食品表示分析・規格研究部長
山田 和彦 先生

「アメリカのサプリメント事情～どう作られどう売られているか」

Anzai & Associates 代表 安西 英雄 先生

「薬局店頭からみたサブリ事情」

医薬情報研究所(株)エス・アイ・シー 医薬情報部責任者
堀 美智子 先生

「サプリメントの活用に関する注意 世界の例を交えて」

武蔵野大学薬学部教授 齋藤 洋 先生

「サブリの適正使用にむけて～情報の整理と発信」

北海道大学大学院薬学研究科教授 井関 健 先生

ついて怪しいものが多い。医薬品として使用する場合の上限容量を超えた製品や国内無承認、麻薬取締法で規制されている成分を忍ばせたもの等、危険を伴うサプリメントの存在を警鐘するとともに、法的整備と正しい情報発信の必要性を訴えられた。

最後に、サプリメントを適正に使用するための情報の整理と発信について、北海道大学大学院薬学研究科教授の井関健先生にお話いただいた。巷に氾濫する健康食品・サプリメントに関する情報には信用性の乏しいものが多く、飲み合わせによっては加療中の病気を悪化させたり健康を損なうこともあることを指摘。薬局薬剤師、大学薬学部教員、医師、栄養士が中心になり生活者へ向けてサプリメント・健康食品に関する情報誌を、現在、北海道地域で自発的に提供しているといった取り組み等が紹介された。

ディスカッション・タイムは5人の先生が一同に会し、活発に議論が交わされ、盛況のセミナーとなった。



第3回通常総会・第5回理事会が開催される

平成16年度事業活動の報告及び収支決算、並びに平成17年度事業計画及び収支予算を審議するための第3回通常総会が6月16日(水)午前、新宿・ホテル海洋にて開催され、議決権を持つ運営会員により、事務局準備の議案通り承認された。これに先立って開催された第21回常任理事会・第5回理事会では、16年度決算・17年度予算案の確認の他、16年度に行われた事務局の移転・組織の一新・ホームページのリニューアル等に関する報告、17年度に計画されているプロジェクト会議発足等に関する報告が行われた。

また、理事会ではこれまでSMAC運営に多大な貢献をされた宗像守事務総長はじめ、中村健・村田正弘・小田兵馬の3部会長、森陽・栗原毅・和田高士・石川哲也・佐藤聖の各委員長への感謝状が



池田義雄会長から贈呈された。通常総会・理事会終了後、同会場において記者会見が開催され、報道関係者十数名を対象に、事業計画・組織の変更・人事・事務局の移転について(池田会長)、プロ



ジェクト会議発足について(中村常任理事)、第3回日本セルフメディケーション学会開催について(村田常任理事)ホームページ運営について(佐藤理事)が報告され、質疑応答が行われた。

午後の特別セミナー終了後は、同会場にて交流会が開催され、特別セミナー講師の方々を含めSMAC会員及び役員、報道関係者等約100名が和やかな雰囲気の中、交流を深めた。

第3回SMAC特別セミナー・交流会のご案内

開催日：2005年11月15日(火)
13:00～16:30(特別セミナー)
16:30～18:30(交流会)
会場：京王プラザホテル・扇の間/錦の間

テーマ：“みんなで考えよう 医療制度とセルフメディケーションの課題”

基調講演：「平成18年度の医療制度改革と生活習慣病対策」
元厚生労働省医政局長/全国社会保険協会連合会理事長 伊藤 雅治 氏

パネルディスカッション：

読売新聞東京本社編集局医療情報部次長「医療ルネッサンス担当」

渡辺 勝敏 氏 ほか

*詳細が決定次第、ホームページに掲載いたします。



ネット便り 池田会長の新連載『あなたが主治医』スタート!

『セルフメディケーション・ネット(<http://www.self-medication.ne.jp>)』では好評の2連載「今月の健康情報」(加藤哲太先生)、「連載セルフメディケーション」(村田正弘先生)に加えて、7月より「あなたが主治医」(池田義雄先生)の連載が始まりました。SMAC行事の開催案内、行政機関・団体等の関連動向を紹介した「医療・健康関連従事者の方へ」ページ、資料室ページ等もリニューアルされていますので是非ご覧ください。

発行：特定非営利活動法人(NPO法人)セルフメディケーション推進協議会

事務局：〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11第7東洋海事ビル8階

(株)創新社内 Tel.03-5521-0890 Fax.03-5521-2883

<http://www.self-medication.ne.jp> E-mail:smac@self-medication.ne.jp